

現代中国の日本庭園の現況・利用・評価に関する研究

A Study on the Current Situation, Utilization, and Evaluation of Japanese Gardens in Modern China

趙 啓蒙* 呂 文静** 鄧 舸*** 真田 張格璋**** 服部 勉**** 鈴木 誠****

Qimeng ZHAO Wenjing LV Ge DENG Koweichang SANADA Tsutomu HATTORI Makoto SUZUKI

Abstract: There are 59 Japanese gardens confirmed in modern China. This study focuses on these gardens' current situation, utilization, cognition and role evaluation from local residents, intended to study how the garden's features affect its utilization. According to priority standards, 29 gardens were chosen to carry out field surveys. Hearings and questionnaire surveys were implemented on managements and users. As a result, some gardens are highly used, but aren't considered as Japanese gardens. The utilization forms of Japanese gardens are directly influenced by the location of the garden, the setting space type, the landscape, and its admission fee. The results showed five usage types. The first is for daily use, light activities such as walking, breaks and physical exercise for elderly. The second is for viewing, where the main purpose is enjoying the cherry blossoms and taking pictures. The third is a combined usage type of daily use with viewing, people would not only enjoy the gardens on April, but also in daily life. The fourth usage type is additional use with low attention paid from facility users. The fifth and final usage type is long-term closed gardens, which are caused by operational management or influenced by China-Japan relations.

Keywords: Japanese garden, Japanese gardens in China, garden evaluation, garden utilization

キーワード：日本庭園，中国の日本庭園，庭園評価，庭園の利活用

1. はじめに

1972年に日中国交正常化が成立し、1983年から東京都日中友好協会の派遣により、日本と中国の間で庭園文化に関する学術交流が開始され、中国に日本庭園が造られた。

既に行われた現代中国の日本庭園に関する研究では現代中国の50庭園(1984-2010)の基本情報がまとめられた¹⁾²⁾。そこで、本研究はこれを基に、Web検索やメールでのヒアリング調査等を実施し、1987-2015年に造られた12庭園の情報を得て、既知の50庭園¹⁾を再精査し、合わせて中国(1949-2015)の公開日本庭園全59庭園の存在を確認し、庭園名、開園年、所在都市、造園経緯、庭園様式などの基本情報を表-1にまとめた。これらの日本庭園は、姉妹都市間の親善目的、国際文化交流、企業施設整備などを契機に、公園、観光地、大使館、博覧会、ホテルなどに造られ、各地に幅広く分布している。

その他海外の日本庭園に関する先行研究³⁾⁴⁾⁵⁾では、日本庭園の施工、維持管理に関する内容や、庭園に見る主な利用活動、問題点に関する記述があるが、庭園の利活用に焦点を当て、地元住民が日本庭園に対する認識、役割評価、または庭園利用形態上の特徴とその原因についての研究は行われていない。従って、日本庭園の存在状況と果たしている役割が明確に評価されていない。

そこで本研究は、現代中国に造られた日本庭園とその利用の現況、及び地元住民の評価を明らかにし、庭園の如何なる特性が利活用状況に影響するかを把握することを目的とした。

2. 現地調査の対象と方法

(1) 調査の対象

研究対象は59庭園であるが、詳細な利活用・管理状況を把握するため現地調査を実施することとした。その際、対象地を下記条件に従って抽出した。1)異なる作庭経緯で造られた日本庭園を各一つ以上、2)異なる地域の日本庭園、3)異なる年代に造成(修復)された日本庭園、の3項目に留意しながら、中国のWeb検索サ

イトBaidu・SNSサイトWeibo等の情報により、知名度や利用頻度が特に高いものに加え、極端に低いと判断される日本庭園もその理由を確認するために加え、29庭園を現地調査の対象とした。

(2) 現地調査の方法

現地調査は、既往文献¹⁾⁵⁾⁶⁾並びにWeb検索で入手した庭園の基本情報を基に、現地にて1)利活用状況の記録・観察、2)庭園管理・運営関係者、庭園利用者へのヒアリング(エスノグラフィー調査法)、3)庭園利用者への対面アンケートとした。なお、現地調査は2016年8月9-22日、2017年3月21-29日に実施した。

1) 利活用状況の記録・観察

現地にて、公開情報、開園時間、設置空間(所属施設)、入園料等に関する情報を確認した。また、庭園内の景観要素、掲出情報、利用状況を記録しつつ参与観察した。

2) ヒアリング調査(エスノグラフィー調査法)

ア.庭園管理・運営関係者：庭園を活かしたイベント、日本側との交流活動、一般市民の利用状況等。

イ.常時庭園利用者・周辺の営業者：庭園の利用状況や経年的変化等。

ウ.地元観光関連事業関係者：各庭園所在都市の空港情報センター、利用宿泊ホテル・タクシー運転手、旅行会社⁷⁾等に調査対象の日本庭園に関する認知状況。

3) 対面アンケート調査

現地調査を実施した29庭園のうち、11庭園のみ利用者アンケート調査が実施可能だった。残り18庭園は、閉鎖中5(内臨時閉鎖1庭園)、利用者無し8、日本庭園として認知されていない4、及びイベント後に日本庭園撤去1(鳳凰湖湿地公園)である。

アンケート内容は12項目：1.利用者属性・来園手段等の基本情報、2.日本庭園としての認知、3.来園理由、4.利用活動、5.庭園の嗜好度、6.良い印象、7.悪い印象、8.再来園希望、9.庭園の印象、10.庭園の役割、11.庭園管理の満足度、に対する5段階評価(非常に満足～非常に不満)と、12.庭園への意見、である。

*東京農業大学農学研究科造園学専攻 **中国楊凌職業技術学院水利工程分院所 ***瀋陽農業大学林学院

****東京農業大学地域環境科学部造園科学科

表-1 中国に造られた日本庭園一覧 (2016)

NO	開園年	庭園名	所在地/設置空間 (所属施設)	造園 経緯	面積 (㎡)	様式	設計	姉妹都市 (提携年)	現地開 業状況
1	1938 (2002年 修復)	東御花園	吉林省/长春市/偽満 皇帝宮博物院内	F	11000	池泉回遊式	佐藤昌		○
2	1984	翠石園	北京市/双秀公園内	D	5400	池泉回遊式	中根金作(株) 中根庭園研究所		○
3	1986	吉備真備記念碑園	陝西省/西安市/西安 城公園内	E	900	枯山水	山本		○
4	1987	清流園	陝西省/西安市/大雁 塔風景区内	D	4000	池泉回遊式	—		○
5	1988	唐華賓館日本庭園	陝西省/西安市/唐華 ホテル内	B	500	—	日本		○
6	1989	神戸園	天津市/天津水上公園 内	A	10000	池泉回遊式	(株)地球号	神戸市 (1973)	○
7	1989	ハルビン・新鶴友誼園	黒龍江省/哈爾濱市/ 太陽島公園内	A	17000	池泉回遊式	新潟市	新潟県 (1979)	○
8	1989	桂林・熊本友好記念園	広西チワン族自治区/ 桂林・熊本友誼館内	A	1200	池泉回遊式	桂林市	熊本県 (1979)	○
9	1991	広島園	重慶市/鶴嶺公園内	A	1800	池泉回遊式	(株)山陽調査開 発	広島市 (1986)	○
10	1992	金沢庭園	江蘇省/蘇州市/東園 内	A	2400	池泉回遊式	石川県造園建築 同組合青年組	金沢市 (1981)	○
11	1992	中日友好園	江蘇省/無錫市	A	7000	池泉回遊式	李正	相模市 (1985)	○
12	1992	防長亭	山東省/済南市/泉城 公園内	A	4500	枯山水	—	山口県 (1982)	○
13	1993	日本庭園	河北省/唐山市/唐河 山公園緑地内	—	25000	—	佐藤憲璋		○
14	1993	中日友誼梅桜園	江蘇省/鎮江市/鎮江 宝塔公園内	A	67000	—	—	豊城市 (1997)	○
15	1994	鉢斎苑	江蘇省/無錫市/無錫 梅園風景景区内	D	500	茶庭	中塚勝博		○
16	1994	桂離宮	広東省/深セン市/世 界の窓内	B	—	池泉回遊式	—		○
17	1994	福井・杭州友好園	浙江省/杭州市/杭州 風景区内	A	—	—	—	福井市 (1989)	○
18	1995	蕪湖園	山東省/済南市/千弘 山公園内	A	2600	—	—	和歌山市 (1983)	○
19	1996	日本庭園	北京市/日本大使館内	I	20000	池泉回遊式	日建設計・ 森山明		○
20	1996	中日友好会館園林	江西省/南昌市/高松 南島友好会館内	A	1800	池泉回遊 式、茶庭	南昌市政建設設計 研究院	高松市 (1990)	○
21	1997	吉林・宮城友誼園	吉林省/長春市/長春 動植物公園内	A	13000	池泉回遊 式、枯山水	宮城県造園建築 業協会	宮城県 (1987)	○
22	1997	華江園	江蘇省/興化市/太平 松公園内	A	1500	池泉回遊 式、枯山水	—	浪江町 (1996)	○
23	1997	南山賓館日本庭園	遼寧省/大連市/南山 賓館内	B	2600	池泉回遊式	中根史郎(株) 中根庭園研究所		○
24	1997	江濱緑都桜花園	浙江省/義烏市/江濱 主題公園内	H	4000	—	西安芸術發展有 限公司		○
25	1997	甲府園	四川省/成都市	A	1550	茶庭	—	甲府市 (1984)	○
26	1997	中日友好園	浙江省/寧波市/桜花 公園内	A	1200	池泉回遊 式、枯山水	日本	長岡市 (1980)	○
27	1997	日本庭園	河北省/石家庄市/石 門公園内	—	—	—	—	石家荘園林规划 設計所	
28	1998	中日友好イテハツ園	江蘇省/南京市/莫愁 湖公園内	—	10000	—	—	張雲英・藤井	
29	1998	長津園	吉林省/長春市/中日 友好会館内	A	2400	枯山水	福原成雄	天津市 (1984)	○
30	1998	東湖磨山桜園	湖北省/武漢市/東湖生 態旅遊風景景区内	D	33333	池泉回遊式	葉蘭管委會・毛 山球		○
31	1998	富麗華ホテル日本庭園	遼寧省/大連市/富麗 華ホテル内	B	91	枯山水	中根庭園研究 所・中根史郎		○
32	1999	日本庭園(1999年中国昆明 世界園芸博覧会展示庭園)	雲南省/昆明市/世博 会公園内	C	3769	現代庭園	東京ランドス ケープ研究所		○
33	2000	中日友好庭園	江蘇省/滬江鎮/滬江 鎮中心小学内	A	7250	—	—	松江市 (1994)	○
34	2001	日本庭園(第4回中国国際 園林博覧会展示庭園)	広東省/広州市/園博 会公園内	C	—	現代庭園	福岡市造園建築 業協会		○
35	2001	会津園	湖北省/荊州市	A	7250	—	—	会津若松市 (1991)	○
36	2004	日本庭園(第5回中国国際 園林博覧会展示庭園)	広東省/深セン市/園 博覧会公園内	C	2000	現代庭園	—		○
37	2004	興福園	江蘇省/蘇州市/鳳橋 景区内	D	782	枯山水	吉河功		○
38	2004	日本園	江蘇省/無錫市/新洲 生態園内	G	7000	池泉回遊 式、枯山水	中国		○
39	2005	兵庫友好庭園	海南省/海口市/海南 国際友誼公園内	A	3200	池泉回遊 式、枯山水	淡路景観園芸校 兵庫寮	兵庫県 (1990)	○
40	2006	日本庭園(2006年中国瀋陽 世界園芸博覧会展示庭園)	遼寧省/瀋陽市/世博 会公園内	C	875	現代庭園	(株)戸田芳樹 風景計画		○
41	2007	雲山桜花園	河北省/承德市/雲山 公園内	A	4000	—	承德市、栢市	栢市 (1983)	○
42	2007	三心庭	香港/オフィスビル内	B	2100	現代庭園、 枯山水	押野俊明・日本 造園設計		○
43	2008	桜花園	広西チワン族自治区/ 桂林園林植物園内	A	9000	池泉回遊 式、茶庭、 枯山水	桂林市園林规划建 築設計研究院・中 高野	熊本県 (1979)	○
44	2008	香港H Garden	香港/レストラン内	B	—	枯山水	(株)藤澤造園		○
45	2008	中日桜花友誼林	江蘇省/無錫市/太湖 園博覧会景区内	D	100000	池泉回遊式	中国		○
46	2009	浜松庭園(第7回中国国際 園林博覧会展示庭園)	山東省/済南市/園博 会公園内	C	800	現代庭園	日本		○
47	2009	和歌山庭園(第7回中国国際 園林博覧会展示庭園)	山東省/済南市/園博 会公園内	C	1890	現代庭園	山本勝洋		○
48	2009	山口庭園(第7回中国国際 園林博覧会展示庭園)	山東省/済南市/園博 会公園内	C	1950	池泉回遊式	山口市造園協会		○
49	2010	日本庭園	四川省/成都市/鳳凰 湖遊楽公園内	B	30000	池泉回遊式	(株)地球号		○
50	2011	奈良園(2011年世界園芸 博覧会展示庭園)	陝西省/西安市/世博 会公園内	C	501	枯山水	坂内利隆		○
51	2011	横浜風園(2011年世界園 芸博覧会展示庭園)	陝西省/西安市/世博 会公園内	C	804	—	日本筑園院大 学学芸学部		○
52	2011	広島園(第8回中国国際 園林博覧会展示庭園)	重慶市/園博覧会公園内	C	1000	枯山水	—		○
53	2011	福岡園(第8回中国国際 園林博覧会展示庭園)	重慶市/園博覧会公園内	C	500	—	福岡市		○
54	2013	日本庭園(第8回中国花 博覧会展示庭園)	江蘇省/常州市/花博 覧会公園内	C	800	枯山水	—		○
55	2014	緑陽庭	上海/環球金融セン ター内	D	15	枯山水	押野俊明		○
56	2014	日本庭園	陝西省/西安市/盛英 利亜大酒店	B	6900	枯山水	重慶日語景観設 計有限公司		○
57	2015	日本園(第10回中国国際 園林博覧会展示庭園)	湖北省/武漢市/園博 覧会公園内	C	225	茶庭	峯岸		○
58	2015	芝生の庭	上海市	B	500	枯山水	岩崎造園		○
59	2015	日本庭園	上海市	B	300	枯山水	宮崎造園緑地 設計		○

備考：造園経緯：A) 姉妹都市の親善 B) 商業目的により整備された庭園(中国進出
日本企業・ホテル・レストラン・遊園地・植木園場) C) 博覧会に伴い展示庭園と
して整備された庭園 D) 団体・企業の友好交流による設置 E) ゆかりのある人物
とその記念 F) 偽満皇宮の付属庭園 G) 日本企業の誘致 H) 一般の景観整備
I) 日本在外公館(大使館) 「—」不明

3. 現代中国における日本庭園の現状(1949年～)

(1) 作庭経緯と設計者

1972年に日中国交正常化が成立してから、1983年東京都日中
友好協会の派遣により、庭園文化学術交流が始まった。その後、
1989年の神戸園(天津)を始めとして、2008年まで、姉妹友好都
市の親善目的により整備された日本庭園は21(36%)と全59庭園
の1/3を超える。この他に、団体・企業の友好交流による設置は
7庭園ある。1998年に日本庭園を取り入れた東湖磨山桜園(武漢)
は、1979年に当時の田中角栄首相が周恩来元総理(78歳没)への
敬意を表し、鄧穎超夫人を通じて桜78本が中国に寄贈され、中
日友好の象徴として植えられた。現在では中国でも有名な桜の名
所の一つとなっている。

1996-2010年の間は歴史認識に関する問題などが日中関係に
影響を与え、1998-2008年にかけては友好親善目的の作庭は減少
し、2008年以降は友好姉妹都市関連の作庭は見られない。

一方、1999-2015年には、世界園芸博覧会(昆明1999、西安
2001、瀋陽2006)、中国国際園林博覧会(第4,5,7,8,10回に日
本庭園展示)、中国花卉博覧会(常州2013)等の園芸博覧会が数多く
開催され、その跡地である「世博会展園」「園博会展園」「花博会
展園」に存置する日本庭園(13庭園)が近年顕著に増加している。
博覧会開催都市が日本と姉妹友好都市である場合(広島園:2011
年第8回中国国際園林博覧会展示庭園、奈良園:2011年世界園芸
博覧会展示庭園)は展示庭園に友好的意義も付され、作庭、開園
式、イベント開催時に姉妹都市の関係者が参加している。

その他、1986年から近年まで、商業目的により整備された庭園

(中国進出日本企業・ホテル・レストラン・遊園地・植木園場の
見本庭園)が10庭園確認出来、日本大使館、ゆかりのある人物
とその記念、偽満皇宮の付属庭園、日本企業の誘致、一般の景観
整備を経緯として造られたのは各1庭園で、不明は3庭園である。

庭園の設計については日本側により行われたものが多く34件
(内大学関与2)と半数以上あり、中国側11件、日中共同2件、現
時点で詳細不明は12件である。

(2) 所在地・分布と利用概況

中国の日本庭園59は、中国東側沿海部を主に、14省、4直轄
市、1自治区、1特別行政区に所在し広範囲に分布している。

中国は秦嶺-淮河線を境として「南・北地域」に区分されるが、
北地域に位置する日本庭園は公園内の一般的な都市緑地として周
辺住民や市内の利用者が多く見られる。一方、南地域では、気候
が桜の生育に適しているため、桜を主体とした日本庭園が目立ち、
「桜園」「桜花園」と命名し、庭園と日本の連携性を表現する例
が東湖磨山桜花園など6庭園あり(内1件は北地域に位置する)、
桜の花見の名所として宣伝されている。

(3) 設置空間・様式・面積

設置空間は、一般の公園20(33%)、園博会展園・世博会展園・
花博会展園13(22%)と、公園内に合計33庭園あり、風景区6、
動物園・植物園2を含めると公園緑地内が6割以上を占める。次
いで、商業施設13(22%)、その他、独立整備された庭園1、博物
館1、小学校1、大使館1、不明1である。

庭園様式では、池泉回遊式16、枯山水12、現代庭園6、茶庭3
である。その他、複数の様式を組み合わせた庭園もあり、「池泉回
遊式+枯山水」5、「池泉回遊式+茶庭」1、「現代庭園+枯山水」2、
「池泉回遊式+茶庭+枯山水」1、現時点で様式不明が13である。

この内、1984-1992年は池泉回遊式庭園が多く取り入れられ、こ
の間に造園された11庭園中8庭園を占める。1993-2010年は多
様な造園経緯による日本庭園が増加し、池泉回遊式以外、枯山水、
茶庭も造られた。また、古典的日本庭園の他、日本風の現代的庭
園も博覧会やオフィスビル内に造られた。2011-2015年は博覧会、
オフィスビル、商業施設内の枯山水様式が際立っている。

開園年	造園経緯	設置空間	様式	庭園数 (面積 100m ²)	
				>	≤
1984	友好姉妹都市の親善	公園	池泉回遊式	>	≤
1984-1998	16件	16件	1986, 7件	23	4
1998	5件	4件	1999, 7件	14	3
1998-2010	2008	6件	2004, 13件	1	9
2010		博覧会	枯山水		
2010-2015					
2015					

図-1 日本庭園の造園経緯・設置空間・様式と庭園面積の変遷

庭園様式は庭園の設置空間による影響を受け、年代的な特徴が現れる。1984-1998年 年には公園内に多くの庭園が設置され、1998-2010年 年から徐々に少なくなり、2010年以後は無くなった。これは池泉回遊式を取り入れた日本庭園の変遷状況とほぼ一致している。同様に、博覧会内に設置された庭園数と枯山水を取り入れた庭園数にも年次的な一致性がうかがえた(図-1)。

庭園面積では1984-1998年に1000m²以上の庭園が23庭園(1.5件/年)造られ、2011-2015年には1庭園(0.2件/年)のみと数が減少。また1000m²以下の庭園が1984-1998年の4件から2011-2015年の9件に増加して面積規模も減少した。

即ち、造園年代から日本庭園の主な設置空間・様式・庭園面積の間に関連性がうかがえた(図-1)。

1998年以降は不動産業が繁栄し、この影響も受け、都市内で新たな公園緑地として提供される空間が少なくなり、1998年以降公園内の日本庭園の設置数が少なくなったと考えられる。また、2000年前後からの日中関係の問題から、姉妹都市の親善や団体、企業の友好交流による作庭が少なくなり、土地、資金面で政府からの支援に限られたことで、大規模な池泉回遊式よりも小規模でも容易に作庭可能な枯山水が増加したと推測される。

4. 日本庭園の活用状況と利用者の認識・評価

(1) 公開状況

29庭園の公開状況は1.一般公開21件、2.限定公開(庭園の付属する施設利用者のみ利用可)4件、3.閉鎖4件であった(表-2)。

一般公開21庭園の設置空間は、公園11、風景区3、世界園芸博覧会展示園/中国国際園林博覧会展示園5、博物館1、ホテル1。限定公開は商業施設付属の日本庭園(ホテル2、招待施設1、喫茶店1)で、施設利用者からの限定的利用である。閉鎖中は4園あり、運営資金不足、日中関係の影響、来客不足、運営体制内部の複合的要因などが原因と考えられる。

(2) 日本庭園の知名度・利用者認識と役割評価

日本庭園の知名度は庭園所在都市空港の観光情報センター、調査時の宿泊ホテル・利用タクシー運転手、旅行会社、庭園周辺の営業者にヒアリング調査した。その結果、日本庭園の設置空間(所属施設)は認知されていたが、庭園名・所在地に関する情報はほぼ得られなかった。したがって、多くの市民には日本庭園の存在が知られていないと思われる。

利用者認識と役割評価は常時庭園利用者ヒアリング調査した(エスノグラフィック調査法)。以下、質問ごとに回答結果を分析しまとめた。また、ヒアリング調査にて得られた内容の検証を意図し、庭園利用者への対面アンケート調査を実施し、利用者が少ない庭園もあったが、11庭園にて全体で68件の有効回答を得た。その結果の上位回答を表-3、4にまとめ以下の各考察に付した。

1) 日本庭園の利用者認識

利用者の日本庭園に対する認識状況は表-2にまとめた。日本庭園と認識されていないのは6件、認識度が低いのは3件、普通が3件、高いのは9件と、利用者認識も高くない状況であった。

地元庭園利用者に日本庭園が十分に認知されていない要因として、庭園景観の中国風化、日本庭園の説明板が目立たない、市民が庭園の風格に対する関心が少ない等と考察される。

利用者アンケートからも各日本庭園に対する認識の全体的傾向は、日本庭園として「認知」36人(53%)、「大体認知」7人(10%)、「知らない」が25人(37%)という状況であった。

2) 来園理由と主な利活用

来園理由では、公園内に設置される日本庭園は一般の公園緑地として見なされ、環境が静かで自然豊か、家に近いなどの理由で来園する人が多い。活動はトレーニング、散歩、文芸活動が主に行われている。桜が景観主体となる風景区や公園では花見のために来る人が多く、撮影、コスプレも行われている。

利用者アンケートから見る来園理由の選択数上位4項目は「環境が良く、景色が綺麗」が29人(43%)、「近い、普通の公園として」が26人(38%)、「来たことが無いから」が13人(19%)、「偶然通った」が12人(18%)と、庭園の立地と環境を重視し、来園する人が多いという傾向が見て取れた。

主な利用活動で選択数上位4項目は「散歩」49人(72%)、「休憩」25人(37%)、「子供連れ」17人(25%)、「撮影」12人(18%)と一般公園緑地と同様な日常的活動が多い。

3) 利用者の庭園印象

日本庭園の印象では、自然で静かな場所、春の桜が綺麗といったヒアリング結果を得た。また、一部の庭園(神戸園：天津、翠石園：北京、華江園：興化、日本園：武漢)は構造物から異文化を感じることや、過去に池水があった時は綺麗だった(翠石園：北京、華江園：興化、清流園：西安)なども指摘された。

利用者アンケートでは日本庭園の良い印象を13、良くない印象を12の選択肢(複数回答)で質問した。庭園の良い印象の選択数上位4項目は「静かな場所」37人(54%)、「全体の景観が綺麗」25人(37%)、「刈り込みされた植物が綺麗」22人(32%)、「桜などの花見が出来る」18人(26%)であり、悪い印象上位3項目は、「庭園の紹介が少ない」15人(22%)、「日本庭園とは見えない」12人(18%)、「大きな広場が無い」6人(9%)であった。

4) 日本庭園の役割評価

公園・風景区内の日本庭園は一般公園緑地の機能が主に認められ、日本庭園という異なる文化の庭園景観、という役割認識も一部の庭園で肯定された(広島園：重慶、中日友好園：寧波、東湖磨山桜花園：武漢、神戸園：天津、華江園：興化、日本園：武漢)。日中の友好記念・文化交流を経緯に作庭された庭園は多いが、友好推進面での役割は限定的という意見が多いようである。

利用者アンケートで日本庭園の果たしている役割について「とても思う/思う」が多い回答は、「遊び場を提供する緑地」50人(74%)、「花見に良い場所」43人(63%)、「日中友好の推進」37人(54%)、「日本の歴史文化の宣伝」34人(50%)であった。

(3) 利用形態上の特徴

各庭園における主要な利用者、利用時間、来園理由、利用活動を基に庭園での主な利用形態を、日常的利用、観賞的利用、日常・観賞的利用、付随的利用、長期閉鎖の5つにまとめた(表-2)。これらの利用形態は庭園の立地、入園料、設置空間、景観主体桜の影響が高いに直接影響されている、と考察された(図-2)。

1) 日常的利用+観賞的利用(3庭園)

桜が庭園の主体となり、住区に隣接する日本庭園では平日に近隣の年配者や子供連れによる日常的な利用が多く、桜の季節には地元からの花見客が来園し、桜の名所ともなっている(日中友好梅桜園：鎮江、江濱緑廊桜花園：義烏、中日友好園：寧波)。

2) 観賞的利用(4庭園)

桜を大規模に配植する日本庭園では、毎年4月に花見客が激増し、記念写真撮影地としての利用が目立つ。しかし、遠隔地に位置す

表-3 日本庭園の認識、来園理由、主な利活用、日本庭園の印象についての利用者アンケート結果

NO	開園年	庭園名	開放状況	回収数	日本庭園への認識			来園理由			主な利活用				良い印象					良くない印象			
					認知	知らない	大抵認知	環境が良く、景色が綺麗	近い、普通の公園として	来たことが無い	偶然運った	散歩	休憩	子供と遊ぶ	撮影	自然で静かな場所	全体の量感が綺麗	知り込みされた植物が綺麗	桜の綺麗な花見場所ができる	庭園に関する紹介が少ない	日本庭園に見えない	大きな広場がない	
1	1984	翠石園	○	11	5(45%)	3(27%)	3(27%)	3(27%)	11(100%)		2(18%)	6(55%)	6(55%)	4(10%)		6(55%)	2(18%)	1(9%)		1(9%)			
2	1987	中日桜花友誼林	○	4	2(50%)	2(50%)		4(100%)		1(25%)		4(100%)	1(25%)	1(25%)	2(50%)	2(50%)	1(25%)	4(100%)	1(25%)	3(75%)			
3	1987	清流園	◎	1	1(100%)			1(100%)				1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)	1(100%)			
4	1989	神戸園	◎	20	15(75%)	5(25%)		11(55%)	5(25%)		7(35%)	13(65%)	7(35%)	5(25%)		12(60%)	9(45%)	5(25%)	1(5%)	5(25%)	3(15%)	2(10%)	
5	1991	広島園	◎	2	2(100%)			2(100%)				2(100%)	1(50%)			1(50%)	2(100%)	1(50%)	2(100%)				
6	1991	金沢庭園	◎	6		5(83%)	1(17%)	1(17%)	4(67%)	2(33%)		5(83%)	1(17%)	2(33%)	4(67%)	5(83%)	1(17%)	5(83%)	3(50%)	1(17%)	2(33%)	1(17%)	
7	1997	中日友好園	◎	1		1(100%)			1(100%)			1(100%)				1(100%)							
8	1997	華江園	◎	3	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	2(67%)	1(33%)		2(67%)	2(67%)	2(67%)		1(33%)							
9	1998	東湖桜花園	◎	9	5(56%)	3(33%)	1(11%)	5(56%)	1(11%)		2(22%)	1(11%)	8(89%)	3(33%)	2(22%)	3(33%)	3(33%)	4(44%)	4(44%)	6(67%)	2(22%)	1(11%)	2(22%)
10	2011	広島園(第8回中国国際園林博覧会展示庭園)	○	2	2(100%)			1(50%)			1(50%)	1(50%)	1(50%)			1(50%)				2(100%)			
11	2015	日本園(第10回中国国際園林博覧会展示庭園)	○	9	4(44%)	4(44%)	1(11%)	2(22%)	3(33%)	5(56%)		6(67%)	2(22%)	3(33%)	1(11%)	5(56%)	4(44%)	2(22%)	1(11%)	3(33%)	2(22%)	1(11%)	
合計	-	-	-	68	36(53%)	25(37%)	7(10%)	29(43%)	26(38%)	13(19%)	12(18%)	49(72%)	25(37%)	17(25%)	12(18%)	37(54%)	25(37%)	22(32%)	18(26%)	15(22%)	12(18%)	6(9%)	

備考：1.開放状況：○一般公開（有料）◎一般公開（無料）2.割合の母数は各庭園の回収数 3.複数回答、上位のみ掲載

表-4 日本庭園の果たしている役割についての利用者アンケート結果

NO	開園年	庭園名	開放状況	回収数	遊び場を提供する公園緑地			花見に良い場所			市民に新鮮感を与える			日中友好の推進			日本の歴史文化の宣伝		
					●	△	×	●	△	×	●	△	×	●	△	×	●	△	×
1	1984	翠石園	○	11	6(55%)		1(9%)	6(55%)		1(9%)	3(27%)	2(18%)	4(36%)	3(27%)		5(45%)	3(27%)	1(9%)	6(55%)
2	1987	中日桜花友誼林	○	4	3(75%)			3(75%)			3(75%)			2(50%)	1(25%)			3(75%)	
3	1987	清流園	◎	1	1(100%)			1(100%)			1(100%)					1(100%)		1(100%)	
4	1989	神戸園	◎	20	17(85%)	1(5%)	2(10%)	10(50%)	5(25%)	1(5%)	13(65%)	4(20%)	2(10%)	14(70%)	2(10%)	3(15%)	13(65%)	2(10%)	4(20%)
5	1991	広島園	◎	2	2(100%)			2(100%)			2(100%)			2(100%)			2(100%)		
6	1991	金沢庭園	◎	6	6(100%)			5(83%)	2(33%)		5(83%)			4(67%)	1(17%)		2(33%)	2(33%)	
7	1997	中日友好園	◎	1	1(100%)			1(100%)			1(100%)			1(100%)			1(100%)		
8	1997	華江園	◎	3		1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)	1(33%)			2(67%)
9	1998	東湖桜花園	◎	9	8(89%)	1(11%)		8(89%)	1(11%)		6(67%)	2(22%)	1(11%)	5(56%)	1(11%)	4(44%)	5(56%)	0	2(22%)
10	2011	広島園(第8回中国国際園林博覧会展示庭園)	○	2	2(100%)			1(50%)	1(50%)		2(100%)			1(50%)	1(50%)		1(50%)	1(50%)	
11	2015	日本園(第10回中国国際園林博覧会展示庭園)	○	9	4(44%)	4(44%)	1(11%)	5(56%)	2(22%)	2(22%)	5(56%)	3(33%)	1(11%)	5(56%)	3(33%)	1(11%)	5(56%)	2(22%)	1(11%)
合計	-	-	-	68	50(74%)	7(10%)	5(7%)	43(63%)	12(18%)	5(7%)	42(62%)	12(18%)	9(13%)	37(54%)	10(15%)	15(22%)	34(50%)	10(15%)	15(22%)

備考：1.開放状況：○一般公開（有料）◎一般公開（無料）2.役割評価：●とても思う/思う △単純に判断出来ない ×全く思わない/思わない 3.割合の母数は各庭園の回収数

る、入園料が高いなどの理由から平日の観光客は少ない。

鳳凰湖湿地公園日本庭園（無料、成都）は2010年「日本テーマ活動」により日本的要素（富士山、鳥居、日本風販売店）を公園内に加え、日本庭園の雰囲気を作成したが、その後は造園要素を撤去。この公園は都心部から離れた郊外で日常利用者（無料）は少ないが、園内の桜は人気があり、中国国内で有名な東湖磨山桜園（武漢、60元/人）、中日桜花友誼林（無錫、105元/人）と同様、毎年桜の季節（有料40元/人）に観光客が激増する。日本庭園として市民に認識されている広島園（重慶）では、桜の季節以外にも野鳥撮影、コスプレ・結婚記念撮影が行われており、通年に渡り多くの利用者が訪れ、特に若者に人気があるとのことである。

3) 日常的利用 (6庭園)

都市内の公園、風景区に設置される日本庭園は住区に隣接するため、一般的な公園緑地として日常的な利用が見られる。園内の安らいた環境は市民に好まれ、朝晩は近隣住民（特に年配者）によるトレーニング、散歩の利用が見られ、利用率も相対的に高い。中でも入園無料の神戸園（天津）、清流園（西安）、金沢庭園（蘇州）、格安有料の翠石園（北京、0.2元/人）は各都心に立地して住宅街に近く、家族づれの週末利用等としても人気の庭園である。

吉備真備記念碑園（西安）は、環城公園内に設置され、記念的意義が高く、石碑と僅かな庭園要素のみで構成され、日常的地元

利用は散策（通過）・軽い運動等である。

4) 付随的利用 (12庭園)

博物館、商業施設内の日本庭園は観光、主要施設の利用者のために設置され、庭園の注目度・利用率は低いようで、主要施設の利用に従属した、いわばついでの利用となっている。

偽満皇宮博物館内の東御花園（長春）は中国北部と日本の庭園様式をもつ庭園である。来訪客は博物館展示と歴史的建造物目的のようで、庭園は主として休憩・通過利用となっている。

博覧会跡地の公園である、世界園芸博覧会展示園（西安）/中国国際園林博覧会展示園（武漢、重慶）内では、中国国内と世界各地から出展された庭園が存置し、日本庭園も展示庭園の一つとして観賞利用されている。博覧会開催中の利用者は多かったものの、広大な跡地公園の利用者は少なく、その一角の日本庭園への訪問者はさらに少ない。これと同様に、都心部から離れた広い生態園に位置する日本園（無錫）の来園者は生態園の観光を主としているため、日本園への注目度は低く、来園者が少ない。

ホテル等商業施設内の日本庭園は付随庭園として存在し、施設利用を目的とした多くの利用者にはあまり注目されず、利用率は比較的低い例が多い（日本庭園：西安、吳瀛園：蘇州、長津園：長春）。その内、長津園（長春）は施設利用者には開放されているが、良好な管理が行われておらず修復再整備が必要な状況である。現状で主として従業員の通過動線としての利用のみであった。

現在の甲府園（成都）は喫茶店付随庭園だが、10年程前までは開放小遊園だった。すでに、日本庭園の特徴は失われ、地元では日本庭園との認識ではなく、中国茶店付随庭園と見なされていた。

唐華賓館日本庭園（西安）は日常、ホテルの利用者に観賞、散歩など軽い利用のほか、太極拳の練習も行われている。また、ホテルのイベント開催時では外部空間の活動場所となっている。

5) 長期閉鎖 (4庭園)

資金不足、日中関係の影響、運営体制内部の複合要因などから、日常の維持管理はなされているが長期閉鎖中の庭園がある。

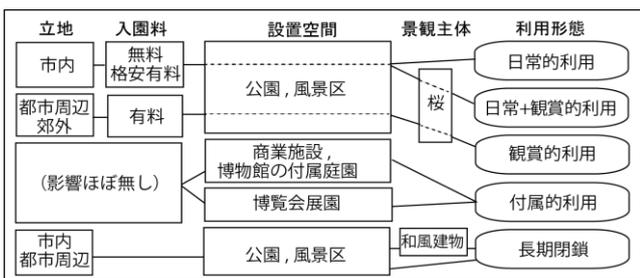


図-2 一般公開される日本庭園に見る利用形態と庭園状況の関係

桂林・熊本友好記念園(桂林)は運営資金不足のため、約10年前から閉鎖放置状態。風景区の主要観光地区から離れた絃斉苑(無錫)は来園者が少なく2010年から閉鎖状態。この2庭園は、喫茶店、賃貸オフィスなどと利用を高める試みがなされたが、結果的には運営管理が継続されず閉鎖となった。

桜花園(桂林)は桂林園林植物園に設置され、中国の造園家に「国内最大の日本専類園林」と評価されるが⁸⁾、管理運営面での課題から閉鎖中。吉林・宮城友誼園(長春)は設置される長春動植物公園が2008年公園全園改修の際、日中関係に影響され閉鎖。この2庭園の維持管理は行われている。桂林・熊本友好記念園(桂林)、絃斉苑(無錫)、桜花園(桂林)3庭園に見る共通点は庭園面積に対し日本風建物の面積が大きいことである。こうした建物主体の庭園では、その利活用が運営管理の大きな課題のようであり、建物の維持運営管理の問題が日本庭園閉鎖を招いていた。

(4) 日本庭園でのイベント開催状況

調査庭園の内の約8割23庭園で、イベントと日中間の交流活動情報を把握した。他の6庭園は無し3、不明3である(表-2)。

開催頻度は全体的に低いようで、各開催頻度別の庭園数は:定期開催(毎年)6、定期開催(数年に一度)3、定期開催(近年停止)3、特別開催17(日中友好周年記念、友好団体訪問、開園式典、博覧会展示、庭園修繕/技術交流の必要などのために不定期的に行われた開催数の少ないイベント)であった。

日本庭園での開催イベント・日中交流の内容は以下の8類型にできた。1.技術/修繕交流(10庭園、日本側参加9)、2.記念行事(8庭園、日本側参加6)、3.訪問/見学(5庭園、日本側参加5)、4.文化展示/交流(6庭園、日本側参加3)、5.桜花節(5庭園、日本側参加3)、6.茶会(3庭園、日本側参加1)、7.植樹(2庭園、日本側参加2)、8.その他(3庭園、日本側参加1)である。

この内、桜花節は5庭園にて毎年定期的に開催され、開催数が多い他、参加人数も多く、日本の民俗音楽、舞踊、茶会、文芸活動など様々な日本文化を紹介するイベントと共に、中国伝統文化展示も行われている。日本庭園のイベントには日中の友好的意義を重視するものが多く、日中友好周年記念、友好団体訪問、博覧会展示などのため、特別開催として不定期に行われている。参加者は日中行政関係の要人、友好団体、造園・園芸関係、その他(在中日本人、在中日本企業など)の人々が見られる。しかしこれらのイベントは開催頻度が低いと、一般市民の参加も少ないため、市民との繋がりは低いと考えられる。

日本側の参加が見られたのは19庭園あり、行政機関、友好団体の参加が比較的多く、13庭園を数える。この13庭園の内8庭園は姉妹都市提携の親善目的による姉妹都市日本庭園である。

5. まとめ

(1) 現代中国における日本庭園の現状(1949年~)

本研究では、現代中国に造られた日本庭園を59庭園確認した。これら59の日本庭園は、中国東側沿海部を主に、14省、4直轄市、1自治区、1特別行政区に所在し広範囲に分布している。

作庭経緯では、1984-2010年、姉妹友好都市の親善目的や、団体・企業の友好交流により整備された日本庭園が一番多く、28庭園(47%)。内1989-1998年は作庭件数が最も多く、1998-2010年は日中関係の影響により、友好親善、友好交流目的の作庭は減少し、2008年以降は友好姉妹都市関連での作庭は見られなくなった。一方、1999-2015年は、園芸博の展示庭園として存置する日本庭園(13庭園)の増加が目立つ。

庭園様式では、1990年代の池泉回遊式を中心とする日本庭園から2000年以降は枯山水庭園、小規模庭園の増加が目立つ。特に枯山水は近年日本庭園の独特な様式として、インターネット、園芸博などで宣伝され、また近年商業施設内での枯山水の採用が顕

著であり、日本庭園の様式として流行している。

(2) 日本庭園の利活用と評価

現地調査対象29庭園の利活用状況の観察・記録、ヒアリング(エスノグラフィ調査法)、利用者アンケートの結果を参考して、以下の主要な3点の結果を得た。

1) 利用状況と日本庭園の知名度・認識・評価

公園内の日本庭園はアクセスも便利のため、日常的利用や花見利用が多く見られる。利用者達は散歩、休憩、トレーニングなどを目的に来園し、一般の公園緑地としての役割評価が際立ち、友好推進や文化伝播面での働きは比較的限定されている。庭園景観は中国の公園緑地景観に順化し、市民の日常生活と融合し合い、中国風化されている庭園も見られた。これに加え、主な利用者である地元の年配者達が庭園の風格に関する関心度も低いため、利用者は日本庭園と認識していないことが多い。

一方、日本庭園としての観賞利用は桜を主体とする公園・風景区が主であることが考察された。花見が近年流行している⁹⁾中、桜は日本の象徴として見なされている。このような公園や風景区では、毎年4月に桜花節が開催され、大勢の観光客が集まり花見を楽しむ。このイベントを機会に、日中の交流や、日中伝統文化も展示され、娯楽と友好交流に有効な日本庭園の役割と評価される。管理側としても桜の植栽管理を中心に行うのは比較的容易とのことなので、今後は桜の花見が出来る日本庭園が中国で注目を更に集めると考えられる。

2) 庭園利活用の影響要素

日本庭園における利用形態は、庭園の立地、設置空間、入園料、庭園景観などに左右されている。そして、これらの要素は日中の政治、経済文化交流などに影響された開園年、造園経緯と関連が深いと考察された。

庭園イベントの開催により日中の友好推進や文化宣伝する動きがうかがえた。しかし一般の市民が中心のイベントは桜花節、茶会、文化展示/交流などに限られ、開催数も少ないことから、日常的な日本庭園の利活用に対する影響は低い。

長期閉鎖中の日本庭園は和風建物がその主体であるものが多く、建物の維持運営管理に困難が発生していたことから、建築物については管理・利活用両面の慎重な検討の必要性が指摘される。

謝辞:本研究はJSPS 科研費 26292187 の助成を受けました。多忙の中惜しまず情報を提供していただいた自治体(日本)、園林局(中国)、現地管理者、利用者の皆様に御礼申し上げます。

補注及び引用文献

- 1) 呂文静(2011):中国に造られた日本庭園に関する研究:東京農業大学修士論文
- 2) LV Wenjing, HATTORI Tsutomu, DENG Ge, SUZUKI Makoto, MAKITA Naoko (2010):The Present Situation and Topics of Japanese gardens in the Middle and Eastern Parts of China: Proceeding of the 48th IFLA World Congress in Suzhou, Proceeding CD, Session No. 1
- 3) 「海外の日本庭園」調査報告書刊行委員会編(2006):「海外の日本庭園」調査報告書:(社)日本造園学会、25-39
- 4) 東京農業大学国際日本庭園研究センター(2016):Japanese Gardens Outside Japan (海外の日本庭園) HP: <http://www.nodaigarden.jp> (2016年5月8日参照)
- 5) 福原成雄(1999):中国長春市における日本庭園作庭とその意義:芸術(22)、154-164
- 6) 中根金作(1989):谷村繁雄とその庭:庭1989年1月号、56-57
- 7) 地元観光関連事業関係者へのヒアリング調査対象者の詳細は:各庭園所在都市の空港情報センター(5ヶ所):9庭園に対して合計7人、利用宿泊ホテル(7ヶ所):10庭園に対して合計9人、タクシー運転手(12都市):18庭園に対して合計27人、旅行会社(3ヶ所):3庭園に対して合計9人。総合計52人。
- 8) 桂林園林植物園の日本庭園現地解説看板(2016年8月11日調査)。国内著名な園林専門家李敏教授の言葉として、「国内最大の日本専類園林」と解説されている。
- 9) 謝 榮 哈・鈴木 誠・服部 勉(2015):現代中国の桜と花見スポットに関する調査研究:ランドスケープ研究 78(5)、455-460